

授業科目 小児看護援助論Ⅱ	区分・教育内容		
	専門分野Ⅱ 小児看護学		
授業担当者 黒澤 美奈 (専任教員)	開講時期	単位数	時間数
	中期～後期	1 単位	30 時間
授業の目的 機能障害や症状のある子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。			
授業の目標 1. 機能障害や症状のある子どもと家族の心理および対応の方法を理解する。 2. 機能障害や症状のある子どもと家族に対する看護援助の要点を理解する。 3. 小児看護の特性を踏まえた看護過程の展開ができる。			
授業概要 子どもは理解力・認知力・対処能力が未熟であり、療養生活を送る上で心的外傷を生じないように、配慮が必要となる。不安・恐怖を最小限にし、持っている力を引き出しながら症状・苦痛の改善を図り、できるだけ早く家族のもとに帰れるよう援助する必要がある。また健康障害があっても成長・発達を保障しなければならない。 この科目では、各機能障害の中の代表的な疾患と小児によくみられる症状を取り上げ、看護のポイントを学習する。さらにペーパーペイシエントでの看護過程の展開（計画立案まで）を行い、成長・発達に視点を置いた看護展開を具体的に学ぶ。			
授業計画（進め方）			
	機能障害のある子どもの看護	症状別看護	その他
1 回目	防衛機能の障害（感染症）	発熱・発疹・痙攣	隔離
2 回目	防衛機能の障害（アレルギー疾患）		吸入
3 回目	呼吸機能の障害	呼吸困難	酸素療法
4 回目	循環機能の障害（川崎病も含む）	チアノーゼ	
5・6 回目	消化機能の障害	下痢・嘔吐・脱水	輸液療法
7 回目	代謝機能の障害		
8 回目	悪性新生物	痛み・出血傾向	化学療法・輸血療法
9 回目	排泄機能の障害	浮腫	活動制限・食事制限
10 回目	ハイリスク新生児と家族の看護	黄疸	光線療法
11 回目	看護過程演習：事例提示		
12 回目	看護過程演習：病態生理・関連図		
13 回目	看護過程演習：情報の解釈		
14 回目	看護過程演習：計画立案		
15 回目	看護過程演習：パンフレットの作成		
テキスト 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ 小児臨床看護各論 医学書院 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ			
参考書・指定図書 筒井真優美 小児看護学 ～子どもと家族の示す行動への判断とケア～ 日総研			
評価の方法 筆記試験：80 点 看護過程演習：20 点 合計 100 点で評価する。			